

題目 ネコのゆっくりとしたまばたきがヒトに与える影響-ヒトのまばたきとネコに対する印象に与える影響に着目して -

氏名 中村 大斗

指導教員 瀧本 彩加

ネコのゆっくりとしたまばたきは、ネコ-ヒト間の友好を示すシグナルとして知られてきた。実際、ヒトによるゆっくりとしたまばたきは、ネコのゆっくりとしたまばたきの生起を促進するとともに、ネコの接近を誘引し、ネコ-ヒト間インタラクションにおいて友好を示すシグナルである可能性が科学的に示唆されている (Humphrey et al., 2020a)。また、ネコのゆっくりとしたまばたきは、シェルターにおいて新しい飼い主に引き取られるまでの日数を少なくすることもわかっている (Humphrey et al., 2020b)。一方で、Humphrey et al. (2020a) とは逆に、ネコのゆっくりとしたまばたきが、ヒトのゆっくりとしたまばたきの生起を促進するかについてはまだ検討されていない。また、なぜネコのゆっくりとしたまばたきがシェルターからのネコの引き取りを速くするのかについてもまだ検討されていない。そこで、本研究では、ネコの表情に関する3種類の動画(ゆっくりとしたまばたき・あくび・無表情)を呈示し、ネコのゆっくりとしたまばたきがヒトのまばたきやヒトのネコに対する印象に変化を与えるのかを検討した。具体的には、ネコのゆっくりとしたまばたきがヒトのまばたきの速度を遅くするか、また、ヒトがネコに対して抱く接近動機・養育動機を高めるかを検討した。分析の結果、3種類の動画のどの条件間においても、まばたきの持続時間の有意差は見られなかった。この結果は、ネコのゆっくりとしたまばたきが、ヒトのまばたきの持続時間に影響を与えないということを示唆している。また、3種類の動画のどの条件間においても、評定項目(かわいい、近づきたい、保護したい度合い)の評定値の有意差は見られなかった。この結果は、ネコのゆっくりとしたまばたきが、ヒトの接近動機や養育動機に影響を与えないということを示唆している。ただし、動画視聴中、参加者に前傾姿勢を強いたことでストレスが生じ、持続時間の増加が抑制された可能性や、刺激動画に用いたネコが特異的にヒトのまばたきやネコに対する接近動機・養護動機に影響を及ぼさなかった可能性もある。また、先行研究では対面で刺激を呈示していたことから、対面でのゆっくりとしたまばたきが、ヒトのまばたきの速度を遅くしたり、ヒトのネコに対する接近動機や養護動機を促進したりする可能性もある。したがって、これらの可能性を考慮し、手続きを改善して再検討をした後に、本研究の結論を出すべきだと考える。